

デザインスクール in アジア 実施報告

2017 年 6 月 16 日 村上陽平

1. 概要

京都大学での FBL/PBL, さらにサマーデザインスクールを経験した本科生（修士 2 年次を中心）香港バプティスト大学や国立成功大学の学生と合同でデザインワークショップを行うことによって、修得したデザイン理論やファシリテーションの手法の定着を図ることが本デザインスクールの目的である。このイベントは沖縄でのデザインスクール（修士 1 年次が中心）の次の機会として設定するもので、英語でのワークショップである点、初めて状況を理解する海外でも問題発見、解決を求められる点で難度が格段に高い。博士課程でのフィールドインターンシップやリサーチインターンシップなど本格的な武者修行の前段としての位置づけるものである。

今年度は、高齢化社会のためのシェアリングエコノミーを共通テーマとする。また、香港に加えて台湾でも開催することで、アジア各地の異なる環境に対して国際的な視点で高齢化社会のためのシェアリングエコノミーを設計することを目指す。まず初めに台湾の国立成功大学がホストとなりワークショップを開催し、順に京都大学、香港バプティスト大学と開催場所を移していく。どの大学の学生も少なくとも他国と自国を 1 カ所ずつ経験することで、自国の環境や文化との比較を通して、ホスト国の問題発見および解決を試みる。また、今年から国立成功大学が加わることで、工業デザインや経営学、文学など参加学生の専門分野がより多様化し、異分野協働の環境が整った。

2. スケジュール

今年度は、京都、香港に加えて、台南でも開催するため、連続した日程としている。

2017 年 5 月 26 日（金）～5 月 29 日（月）

5 月 26 日（金）	関西国際空港から高雄国際空港へ
5 月 27 日（土）	各ワークショップでフィールドワークやアイディエーションを実施
5 月 28 日（日）	夕刻：発表会 於：国立成功大学
5 月 29 日（月）	高雄国際空港から関西国際空港へ

2017 年 5 月 30 日（火）～5 月 31 日（水）

5 月 30 日（火）	各ワークショップでフィールドワークやアイディエーションを実施
5 月 31 日（水）	夕刻：発表会

	於：京都大学（デザインイノベーション拠点）
2017年6月1日（木）～6月4日（日）	
6月1日（木）	関西国際空港から香港国際空港へ
6月2日（金）	各ワークショップでフィールドワークやアイディエーションを実施
6月3日（土）	夕刻：発表会 於：香港バプティスト大学
6月4日（日）	香港国際空港から関西国際空港へ

【ワークショップ@台南】



【ワークショップ@京都】





【ワークショップ@香港】



3. ワークショップ

今年はい三都市でワークショップを行うことから、昨年までのように京都での取り組みを香港の課題解決に適用するといったスキームではなく、高齢化社会のためのシェアリングエコノミーという共通テーマの下、台南、京都、香港の各都市の高齢化に関わる問題に取り組んだ。台南では高齢化によって生じた空き家のシェアリングを、京都では高齢者の孤独を防ぐためのコミュニティという場のシェアリングを、そして香港では高齢者の人材のシェアリングのデザインを試みた。特に京都はい三都市の中でも一番高齢化率が高く、また独居老人も多いことから、他の二都市と比べてより課題が深刻化している。このような課題への取り組みとしてコミュニティカフェ（まちの縁側）という、高齢者と地域コミュニ

ティを繋ぐ活動が行われているが、コミュニティカフェの運営者も高齢化しており、その持続性が大きな課題であった。そこで、京都のワークショップではコミュニティカフェというコミュニティの場のシェアリングを持続可能とするモデルの構築に取り組んだ。

4. 参加者

＜学生＞42名

京都大学デザイン学履修者 8 名（うち予科 3 名）、香港バプティスト大学 14 名、国立成功大学 20 名

＜教員他＞18 名

教員 15 名（京都大学 4 名、香港バプティスト大学 6 名、国立成功大学 5 名）

職員 3 名（京都大学 1 名、香港バプティスト大学 1 名、国立成功大学 1 名）

5. アンケート結果

本科生にアンケートを実施し、計 7 名から以下の回答を得た。

【質問】

ワークショップでの活動の内容と所感を、特に印象に残ったことを中心に記載。

【回答 (Luciano Henrique de Oliveira Santos, L3)】

I had the opportunity to study first hand issues faced by real people in 3 different cultures, inserted into different contexts and holding different relationships with society. The teams I worked with all had people from at least 3 different countries and from several different fields, which gave me the opportunity to not only experience different cultural perspectives, but also to get some insights into how each field of knowledge affects and is affected by those cultural backgrounds. In each workshop, we used a different approach to design process, and thus learned different ways to analyze situations, identify issues and propose solutions and innovate. We had several interesting lectures, hearing the point of view of professional designers, business owners, government representatives and people who play significant roles in their communities. In particular, we had the chance to hear from one of the most acclaimed designers in the world about his approach to innovation. We also learned about several ongoing projects in Tainan, Kyoto and Hong Kong, highlighting interesting and though provoking aspects of local culture in each city. We had the chance to visit different venues and analyze their workflow, exploring possible challenges and difficulties, putting the design process into practice to propose innovative solutions.

【回答（Samar El Helou, L3）】

The workshop for me was like a surreal experience. Moving between the 3 different cities, meeting all these new people, hearing all these different stories and learning about great social projects in such a short time. Directly after landing in a city, we were doing fieldwork and learning about the cities' residents by interacting with them. The workshop exposed me to a whole set of new problems, solutions and ways of thinking. It opened my mind, I felt refreshed, and after I came back from the workshop I had a lot of energy and drive for my research.

【回答（郭健, L2）】

香港セッションの司会者とゲストプレゼンターは全員女性で、見学先の IT 企業 の中でも女性社員の割合が高かったです。香港は女性が働きやすい環境だと感じました。

【回答（吉井 健, L2）】

京都セッションの2日目の午後と香港セッションのみの参加なので、全体を通したコメントはできないが、香港セッションでのレクチャーでは、香港の高齢化社会の実情と課題、その解決を狙うベンチャービジネスやそれらを後方支援する枠組みを理解することができた。高齢者向け生活支援用具の販売店をグループで視察し、機能面だけでなくデザイン面でのニーズや、製品化に必要な一定の販売量のボトルネックに対する課題について解決策を議論した。それまでの台湾や京都での学習が共有される進行設計やファシリテーションができれば、より本質的な問題に迫れたかもしれない。これだけ多様な国籍、文化、専門の学生・研究者や実務家とワークショップができるのは、デザインスクールのワークショップの中でも、このデザインスクール in アジア だけなので、大変貴重な学習機会となった。

【回答（山本 法子, L2）】

私は京都セッション・香港セッションの6日間だけ参加しました。香港は気候や文化、地理条件、地域として抱えている社会問題など、あらゆる点で日本と異なっているのが印象的でした。例えば、今回のワークショップのテーマは高齢化社会とそこで暮らす高齢者に目を向けたものでしたが、現地の学生によると、香港では世代ごとに大きな言語の隔たりがあり、若い世代は高齢者と会話をするだけでも一苦勞だそうです。他にも社会の中での高齢者の立ち位置、世代間交流の持ち方、社会福祉制度や行政の取り組み内容など、さまざまな前提条件が日本（京都）と異なっていて、3都市で1つのテーマを共有することの面

白さを実感しました。

【回答（西山慧, L2）】

今回のワークショップで特に印象に残ったのは、台湾セッションで行った、ペルソナ（仮想人物）に基づく問題発見です。デザインをしていく際には、デザインされた物がどのように良い（悪い）影響をもたらすかについて考える必要がありますが、ペルソナを用いたデザイン手法は、この良い-悪いという軸が「誰にとって」捉えられるべき軸なのかを考えるための良い指針となるものでした。

今回のワークショップはデザイン手法を学ぶだけでなく、海外の学生と交流する貴重な機会でした。もちろん会話は英語を介して行われるので、コミュニケーションにおける苦労は絶えなかったですが、ワークショップ中のみならず、ワークショップ後に開催地を案内してもらったり、案内したりしたのは大変楽しかったです。

【回答（炭谷 翔悟, L2）】

今年のデザインスクール in アジアは、これまで京都大学と香港バプティスト大学で行われてきたワークショップに国立成功大学（台湾）が加わり、3大学合同での開催となった。「シェアリングエコノミー」と「高齢化社会」という議題のもと、最初は台湾、次に京都、最後に香港という順番で計3つの異なるワークショップが行われ、計10日間に及んだ。11日目はお家のお布団が外出するのを許してくれなかった。しかし、疲労以上に、国際的な友人の獲得や各国の本議題に対する取り組みの認知など得たものが大きかったと感じている。以下に各ワークショップの所感を記す。

台湾セッションでは、フィールドワークでブループリントカルチャー&クリエイティブパークを訪問した。そこは「シェアリングエコノミー」というより、政府の支援体制が整ったスタートアップのための新旧入り混じる商店街のように見受けられた。このことに関して同じチームの学生達も疑問を抱いており、フィールドワーク後に「シェアリングエコノミー」というバズワードに関して深い議論ができた。議論の結果、我々は「ある対象に既存のものでない別の利用法を適応することで新たな価値を生み出す」という結論に落ち着いた。

京都セッションでは、2つの招待講演が魅力的だった。1つは「シェアリングエコノミー」と「高齢化社会」という課題に対するまいまい京都さんの取り組み。観光ツアーを通してガイドである高齢者の経験をシェアし、経済を回すという分かりやすく新規性のある取り組みだった。もう1つは好奇心を掻き立てられる濱口秀司さんの“Designer Centric Thinking”に関するレクチャー。ある事象に対してこれまでの定説を破るには、方向の全く

異なるベクトルをもった考え方をする必要性を学んだ。

香港セッションでは、グループごとに異なるフィールドワークが行われ、私のグループは高齢者なりきり器具を用いた物理的な高齢者体験を受けた。この背景に、香港の高齢化が急速に進んでいるという事実に対して、若年層の関心を高めたり、高齢者フレンドリーな社会システムを構築したりする必要があるということが言われている。この体験を通して、高齢者が腰を屈めたままでも暮らしやすいように地面に交通情報を埋め込むなどといった解決案を最後のプレゼンテーションで報告した。

終わりに、今後参加予定の後輩たちへ、このデザインスクール in アジアをただ単にワークショップに参加するだけだと捉えずに、これからどうすればこの経験が活きてくるかも考えて参加すれば、より良い機会になると思います。頑張ってください！ご一読ありがとうございました！